

こうせい

恒生病院広報誌



あなたにとって、
もっと身近な医療づくり

vol. 44
2021.12

医療法人社団六心会 恒生病院

<http://www.kosei-hp.jp>
〒651-1505 神戸市北区道場町日下部1788番地
Tel.078-950-2622 Fax.078-950-2623



医療用体成分分析装置 ~InBodyS10~



この度、恒生病院 リハビリテーション課に『InBodyS10』という機器が導入されました。

『InBodyS10』とは、医療用体成分分析装置です。これは、人の身体を大きく分けて体水分・タンパク質・ミネラル・体脂肪を定量的に分析し、栄養状態に問題ないか、身体が浮腫んでいないか、身体はバランスよく発達しているかなど、人体成分の過不足を調べることができます。



例えば、リハビリを毎日頑張っている方の体重が増えたとしましょう。その時に、筋肉量が増えたと喜んで良いのか?脂肪が増えたのか?身体が浮腫んでいるのか?など、判断が難しい場合があります。そんな時、『InBodyS10』を使用すれば、自分の身体で何が起きているのか分かり易く数値化されるのです。さらに、右手・左手・右足・左足・体幹でどこのが筋肉が少ないので、多いのが分かり、どこを重点的に強化すべきなのかも分かるようになっています。

当院では、この装置を使用し、患者様のリハビリプログラムを考案する際や栄養状態を把握する際に役立てております。また、患者様ご自身にも、身体のことを把握して頂き、問題点・目標を明確化することで、モチベーションを少しでも上げてリハビリに挑めるように、スタッフ一同協力してサポートさせて頂きます。





新型コロナ肺炎の流行に伴い恒生病院でも面会が出来ない状況が続いています。入院している患者様は外部と遮断されてしまい閉塞感や孤立感を感じており、また、ご家族様は患者様の状況が判らず、不安や心配が募っています。自分でタブレット等を駆使してご家族様との対話が難しい患者様へ向けて回復期病棟では約1年前からズーム機能を利用したリモート面会を行っています。最初のうちはスタッフも不慣れで上手くスタートできなかったこともありましたが最近はスムーズに出来る様になりました。

患者様は状況が理解できず戸惑う姿や言葉を発することが出来ずに思いを伝えられない場面もありますが、皆さん一様にとても嬉しそうにモニターを眺めています。家族の顔を見て安心した、と仰っていた患者様もいました。また、ご家族様からは通じているか分からぬが姿が見られてうれしい、普段会えないので顔が見られて良かった、との感想をいただいています。

自宅で利用したいとの声もありました。情報管理の面で現時点での実現は難しいのですが、今後今の状態が日常となるとも予想されます。セキュリティ面を強化して自宅と病院とをネットワークで繋げられたらより気軽に利用でき、患者様の様子を見て頂く機会も増え、退院後の生活が少しは具体的に想像しやすくなると思います。

これからもどんどん活用して頂き、リモート面会を楽しみにリハビリに励む患者様が増えていくと嬉しいです。



回復期リハビリテーション 作業療法の取り組み



前号に引き続き、園芸活動についてお伝えします。回復期リハビリテーション病棟では作業療法の一環として、園芸活動を行っています。患者様の中には農業や園芸活動に詳しい方もおられ、アドバイスをいただきながら1年を通して園芸活動に取り組んでいます。



夏野菜はうまく育たない物も多く不作でしたが、収穫を終え、花はきれいに咲いて目を楽しませてくれました。

患者様によると、毎年同じ場所に同じものを植えると連鎖障害が起きうまく育たないそうです。その場所には毎年キュウリを植えていたのですがあまり土壌環境が良くないらしく、殺菌効果のある玉ねぎを勧めていただきました。来年、夏野菜を植える時には元気に成長してくれることでしょう。秋冬野菜は白菜、そら豆、玉ねぎに挑戦しています。花はパンジーとビオラを植えました。患者様が職員に指導をするといった役割や責任を持って作業に取り組んでいただくことも家庭や社会への復帰の手助けになると考えています。

入院生活が長くなり落ち込んでしまう患者様もいらっしゃいます。畑を耕す・種をまくなど土に触れることで患者様の笑顔が増えました。園芸活動には一連の作業を通して達成感をもたらす効果があります。退院後の趣味の一つとして続けていただけると健康維持増進にも繋がります。次号で野菜や花の成長をお伝えできればと思います。



